

不屈の闘い、 画期的な成果

七八年以来八年半、闘いぬかれた争議団の皆さんの決意と御奮闘に、心から敬意を表します。また、ご家族の皆さん、長い間、本当にご苦勞さまでした。

皆さんの悲願である「全員復職」は、かないませんでした。しかし、あらゆる産業・企業に「減量経営合理化」の嵐が吹きあれている情勢の下で、三十五人も指名解雇を撤回させたことは、実に画期的なことです。皆さんの不屈の闘いの見事な成果です。

皆さんの闘いの中で最も注目すべきことは、超党派の争議団と支援組織の結成の成功ではないでしょうか。このことと、「和解」の到達点とは、差別採用・差別配属と闘っている私たちにあって、限らない励ましです。私たちは、これらの橋頭堡を足掛かりにして、更なる一歩前進を勝ちとる決意です。

私たちが皆さんの闘いを十分に支え得なかったことをお詫びするとともに、皆さんが私たちの闘いを、積極的に支えて下さったことに、心からお礼申し上げます。

長い闘い、本当にご苦勞さまでした。

一九八七年三月

国鉄労働組合

中央執行委員長

六本木 敏



沖電気争議団と国鉄労働者との交流は、全国の職場でひろがった。

PHOTO 藤田庄市



青年らしく、争議団として闘いぬきたい。こぶしバンドは「ヘタバンド」といわれながらも演奏しつづけた。

PHOTO 藤田庄市

争議からにげない、
こぶしで生きる

—こぶしバンド—

首を切られても精一杯生きたい。争議団として生きること。俺たちはここで生きる。そんな思いのとき生まれたのが、「こぶしバンド」です。解雇された翌年の春に、港区の労音の仲間たちが企画してくれた沖支援の新春コンサートが最初のデビュー(?)でした。解雇後ドラムをはじめた中野達弥、ギターの八島、ベースの荒木、フルートの平井そしてアコの高屋、ドラムの笹島、トランペットの富樫。いつもは東京のメンバーを中心に、地域の仲間と「明日をつくる仲間たち」という歌声喫茶を続けながら、他の争議団の支援で丸の内の大企業の本社前や決起集会、勝利集会、仲間の結婚式へ。

スモンやカネミのたたかいの支援で厚生省前へ。そして沖電気の本社前や工場へ「許すな／沖電気的首切り」のゼッケンをつけて出かけて行きました。

沖の争議は「わらび座」「日本ファイル」を初め多くの文化団体、文化人の支援を受けてきました。下手なバンドでしたが音楽を通じて多くの人達に支援と連帯を広げられたのではないかと思います。

中野達弥
平井盛博
(沖電気争議団)



たたかいは体力と気力の勝負(争議団事務所で)

PHOTO 藤田庄市

皆々様のだん結のたまもの

87年の春とともに、闘いも終りを告げたことを知り、本当だろうか胸をなでおろしました。ほっとしながら涙が先にでてきました。皆々様のおかげとだん結のたまものとお喜び申し上げる次第でございます。闘争生活から我にかえった気持ちでいっぱいだと思います。

母からの手紙



八島崇好は、争議後はじめて母親と会った。(1979年8月秋田県・わらび座で)



職場復帰の力 『ふれあいまつり』の成功

すべてが仲間たちの手で

『解雇は撤回する。しかし、職場復帰なし。一人一千万円の解決金』が、沖電気より示された85年6月18日。それでは、納得できないと数カ月後、埼玉の沖電気本社工場のある城下公園で、沖電気争議支援本庄ふれあいまつりが市民や支援労働者八、五〇〇人を集めて催された。

まつりは、50店からなる模擬店が軒を並べ、城下公園駅から職場復帰駅行のミニSLが会場を走る。まつりの規模を示すかの様に大型の舞台とふれあいステージが、埼玉土建の職人さん達によって作

り上げられた。法律相談から教育、医療、子育て相談のコーナーも開設された。すべてが支援労働者の持ち味を集めたもの。

子供達でにぎわったミニSLは国労・本庄駅分会の仲間が担当、プログラムや進行は何度となく地元演出家の手で練られてきた。困難だった駐車場は、本庄、児玉地域労組の組合員によって、五〇〇台も駐車できる場所が確保できた。まさに冲争議7年の闘いが創り上げたまつりだった。

「普段見た事のないおもしろい列車が駅に着いていた」と今も話題になる貸切ふれあい列車14両は、浦和地区労を始めとする浦和実行委員会で作られていた。

列車を降りた乗客はギターを片手に、歌をうたいながら街中を行進したのだから、沿道の市民はビックリ。実行委員会は浦和をはじめ十三の地域で作られた。『安保闘争ではバス二台。まつりはバス七台。安保を上廻った取り組みだ』と川越実行委員会。『バス一台で乗り切れなかった』春日部実行委員会。所沢、北足立南部（新座、志木、和光、秩父、行田、戸田、さ

らに東京都内からを含め合計20台を越えるバス。まつりが成功すれば、職場復帰による争議の勝利もまちがいない。こんな思いがとてつもないまつりを創り上げた。それも争議団員が四人しかない埼玉で。

「人波でまっ直ぐに歩けなかったワ」という会場は大盛況だった。荒馬座の勇躍な踊り、レオナルド熊さんのインタビュートコント、国労の仲間の基調報告、埼玉合唱団の歌と続く。あいにく小雨が降り出したがだれも帰ろうとしない。それどころか、笑いや拍手、ガンバレーの

声援で熱気がただよう。模擬店も大繁昌。ビールは町の酒問屋の在庫がなくなってしまうさわぎ。いよいよファイナーレ、拍手の中争議団が舞台へ上る。梅原司平、太田真季さんとともに沖電気争議のうた「赤いゼッケン」の歌を全員でうたう。舞台下にいる参加者の顔に涙さえ見える。参加者と争議団の心がヒーンと一つになった。

笹井 均（沖電気争議団）



沖電気の拠点工場のある、埼玉県本庄市での「ふれあいまつり」には、8,500人が参加した。

PHOTO 森住 卓



レオナルド熊さんも応援に。

沖電気争議——3033日

勝利への歩み

闘いの始まり

一九七八年、沖電気工業は「経営上やむをざる事由により剰員が生じた」と従業員の一部の人員削減を計画。突如十月実行に移した。あらゆる反対を押し切つて退職強要による「希望退職」募集で約千人を退職させ、定数に満たないと二八六人に指名解雇を通告した。「三井三池以来の大企業での大量指名解雇」と言われたが、沖電気労組が闘いの旗を降ろしたなか、十一月二〇日、各工場で就労を拒否された被解雇者によって指名解雇争議が開始されたのである。二〇代、三〇代が圧倒的で、労働組合の活動らしい活動も経験したことのない者が多い若い争議団は、手に入れた労働組合名簿を頼りに、ひとつひとつ労組を訪ね、解雇の内容を説明し支援を訴えはじめた。東京地裁、同八王子支部、浦和地裁熊谷支部、前橋地裁と、働いていた事業所ごとの地裁に「解雇無効・地位保全」の訴えを起こし、裁判闘争も開始した。

争議団の結成・闘いの広がり

当初、いくつか別れて闘いに入つた。八王子では、被解雇者の団結と運動の発

展を抑えるために、刑事事件がひき起された。しかし、七九年には闘いに立ち上つた七一人全員で統一した「沖電気争議団」を結成。東京争議団共闘会議にも加盟し、日本教育会館ホールをいっばいに

して、一周年集会を成功させた。東京、埼玉では地区労組織が次々と支援を決定し、東京の東部七地区労のよびかけで東部支援共闘が作られた。沖電気の

本社のある港区では百以上の労組が加盟する港区支援連、板橋でも板橋支援連が結成され、沖電気本社に対する抗議行動や単独の争議団としては久しぶりと言われた日比谷野外音楽堂での決

起集会などが積み重ねられていった。また、多くの争議を解決させた伝統をもつ「東京総行動」も沖電気争議の解決をめざして、八三年九月には大手町にある富士銀行本店を三千五百人の隊列で取り巻くこととなった。

全国展開

七一人の大型争議団にとって生活と闘



争を支える財政を確立することは重要な活動である。先輩争議団から受け継いだ「全国行商」はその大きな力となった。夏と冬の年二回、北海道から鹿児島まで三〇人以上のオルグ団が一カ月の旅にでる。カンパをもらい宿舎を提供してもらい土地の名産を御馳走になる全国オルグは争議団員を限りなくばねさせてくれた。全国から寄せられる物品の注文には、倒産し工場を占拠している争議団に「発送センター」を提供してもらつて連日の発送作業が行われた。

七四年の九月からは闘いを全国に広げることになった。沖電気の支社・支店・営業所と富士銀行の支店にそれぞれの地元の県評や労組の代表が申し入れを行う行動も回を重ねた。毎日移動する全国オルグのなかでの要請だったがどこでも快く取り組んでくれた。八四年秋の全国行動は富士銀行・三一都道府県一七二支店、沖

電気・二五都道府県三〇支店に達した。四十万人を突破した個人署名(八四年)、六千を越した団体署名もすべての都道府県から集められた結果であった。年々ひろがっていく闘いは沖電気争議の解決に一步一步近づいていく過程であった。

中央共闘結成

所属していた労組や単産が支援しないという困難を最初からかかえた沖電気争議を勝利させるための確固とした闘い体制を作る必要性は、さまざまに議論されてきた。全国の二五の県評が支援を決め、東京、埼玉、群馬でも多数の地区労と有力な単産が支援するようになるなかで八二年一月、沖電気争議支援中央共闘会議が結成された。全国一般東京地本、国鉄労働組合東京地本、都職労、全日自労東京部本、新聞労連東京地連、地区労をはじめ東京の主要な組合が加盟する文字通り「戦闘司令部」が作られ、争議は勝利をめざす局面に大きく転換したのである。東京都体育館に八千人が集まり、日本フイルハーモニー交響楽団の演奏によるインターナショナルを大合唱するという感動的な「文化の夕べ」で中央共闘の結成が宣言された。共闘会議の結成により、東京総行動は富士銀行本店を包むようになり、通産省や労働省、業界など関係諸団体に対する行動も組まれることとなった。

八三年には埼玉県共闘会議が結成され、全県規模の闘いを飛躍させ、八五年九月には工場のある本庄市で「ふれあいまつり」を大成功させ、沖電気城下町を揺るがした。

裁判・和解開始

四カ所の裁判所で開始された裁判では「解雇の必要性及び回避努力」が最大の争点となった。解雇直後、新入社員を採用し、他の会社の名前で人員募集が行われている事実がさまざまな人の協力で明

らかにされた。争議団は夜中まで工場の門前に立って残業者の数をチェックした。弁護団は沖電気の経営状況をさまざまな角度から分析し、法廷で会社側証人を追及した。東京地裁は会社の主要証人の取り調べを終了した八四年二月、職権で和解による解決を勧告し、五月から正式に和解交渉が開始され、



以来二年十カ月にわたって和解交渉が積み重ねられた。一方、他の三裁判所では、さらに審理が進められ、熊谷の裁判所では全ての審理を終了し、後は結審、判決を残すだけとなったのである。

職場・電機

「指名解雇」は解雇された者だけではなく、職場に残された一万三千人の沖電気労働者に、大きな影響と変化をもたらした。争議団にとって職場は欠くことのできない重要な闘いの場である。争議団は毎週、工場の門前で、職場の問題を訴え、争議の状況を伝える「争議団ニュース」を配り、労働者との対話を続けてきた。

沖電気では争議を支援する労働者の仕事をとり上げたり、家族である争議団員を会社の家族ぐるみの行事に参加させな

いなどの事件が起こった。東京工場の浅利、中山両氏は、指名解雇裁判を傍聴したことを理由に仕事差別を受けたため労働委員会に訴え（八一年九月）、職場の注目のなか、三年後に差別を撤回させた。八王子工場の田中氏は本店への配転命令が、争議を支援する労働者を排除しようとするものであると拒否して解雇され、八王子の裁判所へ解雇無効の訴えを起こした。職場労働者との連帯した活動は争



議団に確信を与え、闘いを広げる力となった。

「電機の職場にひとりの首切りも許さない」——沖電気の指名解雇は同じ産業の労働者にも大きな衝撃を与え、支援の体制がいち早く作られた。そして、富士電機、日立、三菱など電機の争議を結集して「電機総行動」が行われるようになった。一日の有給休暇をとって、電機各社の本社に抗議し、通産省や電機工業会などへの申し入れが行われた。すでに十三回の電機総行動が取り組まれ、東洋電機・泉氏、富士電機・田上氏、日本電機・石沢氏の解雇撤回、職場復帰をはじめ多く

解決・新たな闘いへ

の争議を解決する成果をあげ、電機労働者の企業の枠を越えた交流を深めた。

和解交渉では「職場復帰」が大きな争点であった。八五年六月には沖電気から「一人一千万円の解決金、復職なし」の案が出された。争議団は金銭だけでは決しないと復職による解決を求めたが、会社側はあくまでも金銭解決に固執。十二月には、裁判所が「三五名を現実に復職させる」という基本案を提示することとなった。さらに一年二カ月、八七年二月にはそれまでの交渉の上に裁判所が和解案項案をまとめて示し、三月十三日、和解協定に調印することとなった。

解雇されて八年四カ月。復職する三五人は、立ちほだかる困難のひとつひとつを克服して、沖電気の一万三千人労働者と労働をともし、連帯を回復すること。



明るく働きやすい職場を作るために奮闘すること。一人の首切りも許さないために電機や全国の仲間と連帯すること。すべての活動にこれまでの争議の経験と教訓を生かすこと。これらのことが全国から寄せられた熱い支援に応えることになるであろう。復職せずに新たな道を選ぶ三五人にとっても、同じである。沖電気を離れてもそれぞれの場で八年間の争議の経験をどう生かすのか。沖電気争議団のひとりひとりとって、争議解決は新たな闘いへの出発点である。

1985年の行商ベスト5					(個数)
	1位	2位	3位	4位	5位
夏期	花火  30,292	ぶどう果汁  11,778	いかチーズサンド  9,604	アイスミックス  8,856	そうめん  8,373
冬期	カレンダー  16,515	九州ラーメン  15,364	いかチーズサンド  13,165	クリスマスチョコレート  11,925	ぶどう果汁  9,265

行商・訴え

闘志もやすエネルギー

争議団の行商とは、ただ品物を持って売り歩く訳ではなく、カタログを労組、団体に届け、注文を受けて発送し、集金は各組織の協力で振り込みまでしてもらうものです。その意味で争議は、日本

中の人達に支えられて成り立っているのです。ある労組の委員長が、争議団員の結婚式の挨拶で「春には沖電気の鮭一番、夏には沖のソーメンに麦茶、秋にはブラモデル遊び、来年のカレンダーを見る。冬には沖の落花生を食い、タコ上げをする。一年はこうして争議とともに過ぎるんです」と。売上額を上げる事がより

多くの人達に品物を通じて争議を知ってもらい、自分達の事として支援を受け、その力で私達は闘い続けられたのです。私達はその暖かさの中で、闘いの意味を新たにし、闘志を燃やしたのです。又多くの業者に協力していただきありがとうございました。

長井 明(沖電気争議団)



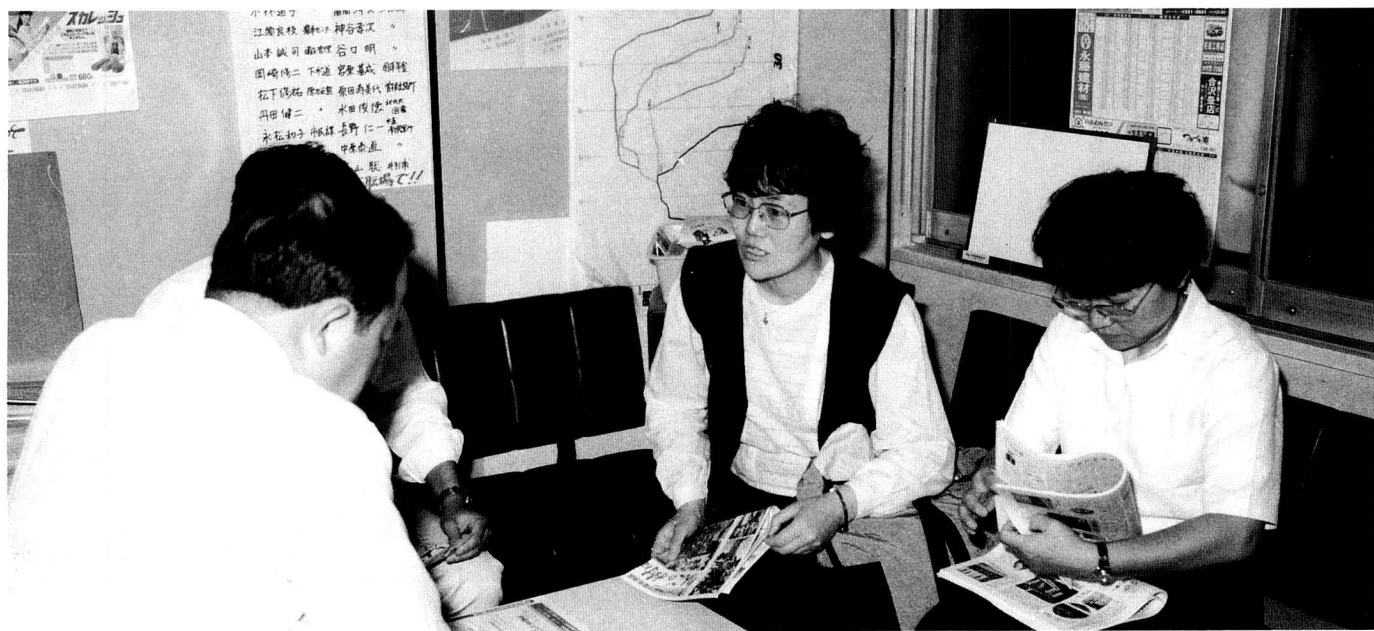
行商は、団員の生活を支える大きな力。落花生もよく売れた。

PHOTO 森住 卓



電車にも、ただ黙ってのっているわけではない。

PHOTO 森住 卓



斉藤・佐藤組は、九州で大きな支援をうけた。

PHOTO 九州の労組

「指名解雇」を 自分のこととして

「お母さん今度九州へ行ってくるけど」「あーそう」と息子達。『どうぞ、』と夫の返事。私も新幹線が発車するとすっきり、出張一週間のキャリヤウーマン気分。

福岡市では福岡医療労組、北九州市小倉では毎日新聞労組の皆さんに全日程、自動車で道案内をお願いしました。労組だけではなく昼はおいしいラーメン屋さん、関門橋、大壕公園など名所旧跡のガイドまでしていただきました。夕飯の心配やあれやこれやの雑事はいっさいなくオルグに専念。

八年間お世話になった組合で「いつもきている八島さんは？」と聞かれたり、青い旗が立っている沖電気争議支援のカンパ箱を机の上にみつければ、同行の佐藤正子さんと「あった〜」と喜びました。執行委員を急拠集め、汗だくの訴えにこたえてくれた組合。「指名解雇は許さない」と私達の争議を自分のことの様に支援して下さる人がこんなにもたくさん。

るす中にご苦労さま、どんなに淋しかったかと思っただけは私のとりこし苦労でした。

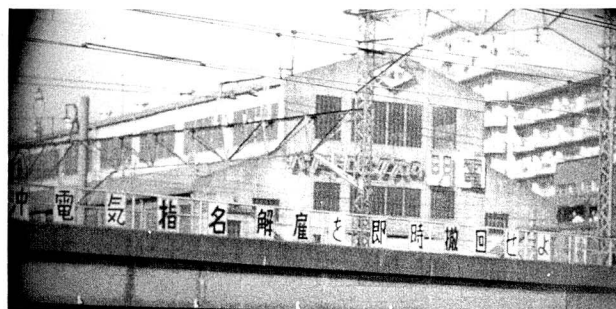
斉藤洋子(沖電気争議団)

すな！指名解雇」の声…



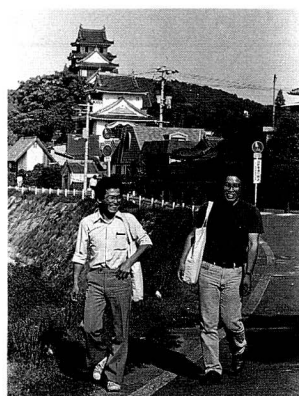
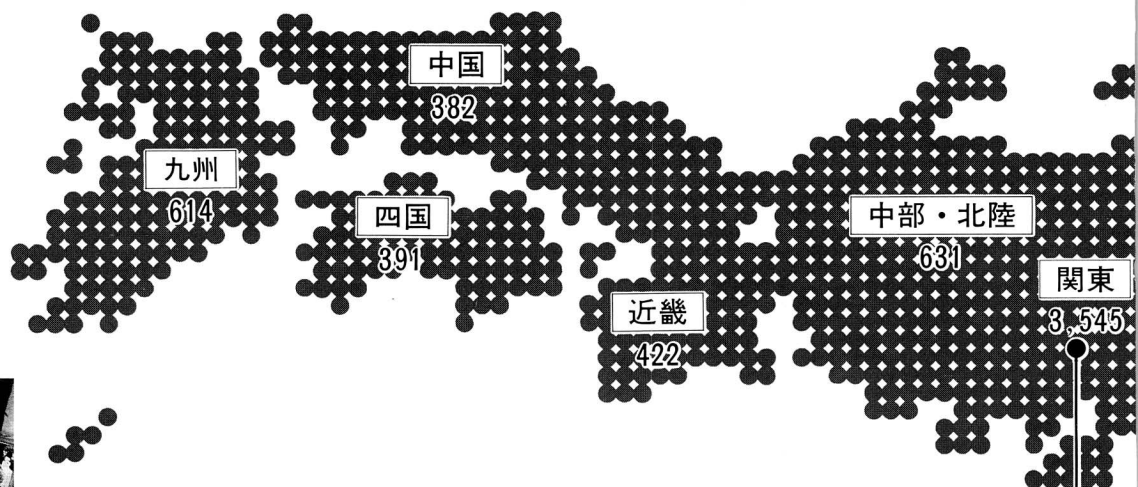
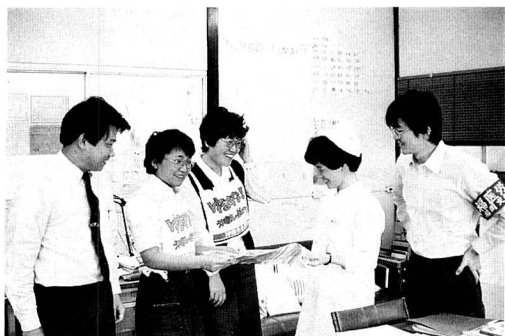
(支援団体数)

- 沖電気本社抗議行動回数 98回
- 富士銀行本店要請行動 25回
- 抗議要請個所
 - 富士銀 31都道府県 172支店
 - 沖電気 25都道府県 30支社・支店
- 沖電気争議決起集会 103回
- パンフ 15万部
- 闘争日数 3,033日
- 沖電気門前宣伝行動 406回
- '84.11.30. 沖電気総行動へ向けて集めた
 - 個人署名 412,315人
- '86.秋. 沖電気に全面解決を要求する
 - 団体署名 6,139団体
- 配ったビラ 850種以上 1,450万枚以上
 - 1日平均で4,780枚



群馬	485
埼玉	421
東京	1,831
東京三多摩地区	528
上記以外の関東	280

全国で湧きおこった「ゆる



私たちは、止まることなく これからも、前進します。

品川事業所

71人の 仲間

(氏名)
(年齢)
(復職先)



東田 熙子
37歳
高崎

愛する者への沖電気の仕打ち。熱い支援を寄せつづけた仲間たちの事を忘れず、私らしさを生かしてゆきます。



相原 幸雄
34歳
本庄

闘いの中で実に多くの人々と出逢い「世の中すてたもんじゃない」と、体で感じた。この事を力にがんばります。



相原 勝美
31歳

やっと解決した感じがする。これからは自分の道を切り開いていかなうとは思ふ。闘い続けて本当に良かった。



市川美佐子
32歳

みんなで力を合わせれば負けないで生きていく道がある。わが身になったの支援団結のすばらしさ身にしました。



飯田 康男
37歳

北海道と東京の東部地域が私の活動地域でした。人情の厚い人達にふれ、たくさんの方をとおそわりました。



荒木 貞
35歳

事務所の木のベンチに枕し苦い酒で口を漱ぐ臥薪嘗胆の九年、念願成就時あたかも春文字通り春の今宵値千金



東田 稔
40歳
高崎

八年余の歳月を費やした争議を通じて得たものをこれからの人生に無駄にする事なく生かしていきたい。



大橋 隆
38歳
高崎

たくさんの方の争議団が闘っていることにビックリした八年前。そして今、連帯して闘えば勝利することを知った。



飯田喜久枝
30歳

争議をしたおかげでいろいろな所に行きました。特に北海道の函館でたくさん市電が走っているのが印象的でした。



梅沢 規子
51歳

病弱の母をかかえ途方にくれた私を、ここまで導いてくれた支援の皆様に心から感謝しています。



伊藤 善正
(死亡)

「節をまげたくない、最後まで一緒にがんばる」と言っていた善さん。(84年 八月三日 六十四歳で死亡) (松)



影山 政行
34歳

争議中も多くの方々に、めいわくをかけてしまった私です。新たな分野で、より幅広い人間になりたい。



加藤 貞子
34歳

ひとりの小さな手、何もできないけど、みんながみんな集まれば何かできる。本当に勝利をつかみました。



金子 輝人
36歳

会社に対する怒りで始めた闘いであつたが全国の仲間の支援で成長し、この闘いの経験を今後に生かしたい。



川口 義範
35歳
本庄

とうとう、八年の長い闘いへんな戦いが終わりました。人生第2の冒険に旅立ちます。



北村 晴夫
40歳
本庄

支援という石を多くの人たちからいただいた八年半でした。この石を数多く帰す運動をこれからしていきます。



五味田 靖子
40歳
本庄

自分自身を回復し、前向きに生きる事のたいせつさを、知ることができました。これから職場でがんばります。



佐藤 一夫
40歳

港区内(東京)の二百四十団体訪問は、彼が樹立の金字塔。アフリカ大陸が大好きなロマン派がんばる(松)



佐藤 辰美
34歳
本庄

自結して闘えば必ず勝利できる。この貴重な経験を活かして今後もがんばります。



須田 孝夫
34歳

楽天的に闘ってきました。良心的な労働者は首切りを放っておかないこと、闘えば必ず勝てることを確信しました。



菅野 江美子
32歳

争議を通して今まで知らなかった多くの事を学びました。どこへ行ってもこの八年間を忘れず頑張っていきます。



中村 光子
40歳
八王子

保育園年長だった息子も中学二年、支えてくれた老母もよろこんでいます。沢山の温い人たちを忘れません。



中屋 重勝
43歳

一步一步、確実に広がっていく連帯の波は大きな確信を与えてくれました。今後にどう生かすかが課題です。



平井 盛博
37歳
本庄

皆さんでもっと豊かに、もっと楽しく暮せるように、一人ひとりが主体の職場づくり、地域づくりの運動の中へ。



船尾 要平
40歳
高崎

私は北海道、中国、四国、九州を全国オルグで回りました。東京を始め全国の暖かい支援と連帯に感謝します。



真喜志 晃
34歳
本庄

電機総行動で闘った争議の13番目の勝利解決。争議が争議を通して電機産別の結集に大きな役割を果たしました。



松本 和子
41歳

多くの闘う人に会え、団結の意味を知りました。できることなら、亡父と一緒に喜びたかった。



松本 謙司
41歳
本庄

沖電気労働組合の役員になって、争議で学んだ、機関紙・宣伝で一役。そんな明日にするために。



柳沼 俊男
37歳
八王子

争議開始後、支援地区からオルグ用にバイクをいただいたなど、全国の支援に感謝、職場へ戻って闘います。



八島 崇好
30歳

すべての人間が求めているものは共通なのに、その人間の弱さが、壁をつくり敵対する。がんばろう！



屋代 真
32歳

マラソンを走り終えたような壮快な気持ちと、新たな人生の出発でもあり複雑だ。8年の闘いを基礎として歩む。

芝浦事業所



板橋 秀吉
43歳
本庄

首切りを認める労働者はいない。首切りは死刑だからである。仲間を信頼し仲間と共に沖労組を強化したい。



板垣てつ子
36歳
本庄

私は本庄工場に復帰。夫は東京。子どもたちに負担をかけるが、きつと分ってくれるでしょう。父母の生き方を。



斉藤 洋子
38歳

争議始めの頃、折り目がまだ残っている千円札のあつい給料。カンパ袋から私達の手へ。忘れられません。



佐藤 正子
33歳

やろうとした事、やらなければいけないと思った事の二もやれただろうか（自分に対して）？でも、楽しかった。



高橋 孝
34歳

何度もうけそうになるなかで、品川はじめ東京南部、九州の仲間などに支えられて闘うことができました。



辻野 正弘
45歳
東京

長いタイムトンネルの闇を抜けた、素早く心身をオーバードールして、争議症候群を払拭したい。



鳥越 一志
40歳
研究開発本部

八年余といってもあつという間に経てしまった。これ迄の貴重な体験を生かして、頑張っていきたい。



中野 達弥
33歳

北海道などのオルグは新鮮で楽しい想出。アルバイト先が、新職場となりますが、体重に気をつけがんばります。



中野百合夫
36歳
八王子

北海道・大阪・岡山・四国・熊本など全国を歩き、人の温りを感じました。これを糧に今後も頑張りたい。



秦 康博
43歳
東京

和解成立の場面は、あつがなく終わりました。八年間の闘いとこれからの闘いが、頭の中を駆けめぐっています。



福本 均
36歳
本庄

解雇撤回の闘いが、自分をすべての面で大きく成長させてくれました。新たな闘いに向けて大きな糧を得ました。



藤原 正和
34歳

全国オルグでは、近畿・中国・九州と支援を訴えてきた私は、第二の職場で、争議の経験を活かします。



和田 正
42歳

裁判所が主宰の交渉で和解が成り、皆さんに支えられここまで来しました。そのことを私がいつも思い出するように。



輪千 泰三
33歳

指名解雇を撤回できて、本当に嬉しいです。しかし、最後までみんなと一緒に活動できなくて残念でした。



斉藤 和成
35歳
高崎

二七歳―三五歳。人生の一番大切な時に費した時間を悔いのないように後の人生にかしたい。勉強になりました。



桧垣 国雄
31歳
高崎

ひとつの仕事のみならずやりとげたという思いがいっぱい。中央区や全国の仲間のあたたかいご支援に感謝！



中山 森夫
45歳

和解終え、笑顔の輪に入る春の雨
労働者の連帯に感動。ありがとうございました。



新納 一徳
38歳
本社

やはり山頂が見えてからがキツかった。だが傷だらけになりながらも、登りきることができてホッとしている。



渡辺 秀雄
37歳
高崎

千代田区のオルグと宣伝を担当してきました。また、関電ビラ事件の専従を三年間行い貴重な経験を得ました。



笹島 常信
36歳
八王子

複雑な思いが交差しています。独占企業の中で、困難はあっても、しぶとく闘っていきたいと思います。

本 社

八王子事業所

企業の中では味わえない世界を、経験できてよかったと思う。支援の人々には深く感謝します。



都倉 高久
35歳

八年間「よくやってこれた」のが実感です。争議団の仲間支援の人の支えがあったからです。がんばります。



局 博光
35歳
八王子

ウーンと考え込むような懐重派だが、ひとたび始動すると、愛嬌ある人柄で、抜群の支援やカンパを得る。(H)



諏訪 正
35歳

長い間御支援ありがとうございます。支援の皆さんや退職する仲間の思いを胸に、職場に戻って頑張ります。



鹿角サダ子
35歳
八王子

朝起こしにいくことから始まった争議もやっと終結した。今後は争議で得たことを充分生かすよう努力します。



富樫 直志
37歳

大量指名解雇、これを許したら労働者の権利は根こそぎ奪われてしまう。この思いで闘い、果すことが出来た。



橋本 久雄
36歳

コメントがまにあわず掲載できませんでした。ゴメンナサイ！



中平 早月
32歳

流し、幾星霜、越累、死屍、盟成事、我盟友將迫、雖野辺、石草、城門、落露、体現、喜、是皆為朋友、



中島 信幸
40歳

半数が職場復帰という結果はかなりなものだと思う。自分としては年をとったということが重い。



薬師神信昭
39歳

巨大な竜をやつと描きあげた。が、最後に晴を入れそこねている。昇竜には、田中勝利と職場の闘いの再構築が...



村山 裕朗
41歳

40歳の大会に乗る前に終結とはいきませんでした。が、これから沖の職場が明るくなる様に微力ながら頑張ります。



米田 和恵
41歳
八王子

甘いも苦いも時においしいのもあったナア。貴重な経験であります。こんなに楽しませてくれた沖電気に多謝か!!



飛渡 孝幸
40歳
八王子

争議団の財布を担当した。人の心の熱さを人一倍感じました。今後は、恩返しをする番だと思っています。



長井 明
43歳
高崎

争議の中での経験は普通では得られない貴重なものだと思います。この経験を生かすようこれからも頑張ります。



高屋 修
34歳
高崎

争議五年目から予想外の病気に悩まされてしまつて心配がけました。新たな気持ちで頑張ります。支援を忘れません。



折戸 光次
39歳

高崎事業所

勝利の日が来た。やつという思いと、等しく働く者の成果を考えている。



岡田 道春
36歳
高崎

色々な想いがよぎった。支援に充分こたえられなかったこと等、この経験を無にせず、頑張っていきます。



佐々木君代
38歳

やりたい事を全てやらしてもらった感じです。争議団冥利につきた八年でした。今後は職場で、がんばります。



南本 博
38歳
本庄

本庄事業所

多くの人々と、種々な経験をしました。この争議をこれからの人生の糧として決意新たに頑張っていけます。



笹井 均
39歳
本庄

現情勢下での35人の職場復帰は、働く者の権利と展望をさし示す突破口を切り開いたと確信し、さらにながらる。



箕輪 進
31歳

●指名解雇事件

裁判所での争点

「経営者の首切りの自由に道をひらくな!!」——まさしく沖電気の指名解雇は、経営者の身勝手な理由ひとつで労働者の生きる権利・働く権利を一気に奪い去るものであった。80年代の戦略産業として大きく成長していくエレクトロニクス産業での大量指名解雇は、新たな資本の攻撃であり、これを認めることは、戦後の労働者の闘いが勝ち取ってきた裁判上での「解雇規制」を覆し、解雇の自由に道をひらくものであった。

整理解雇（指名解雇）が認められるための要件は、①整理解雇をしなければならぬ経営状況であったのか【必要性】②整理解雇を避けるための経営努力が尽されたのか【回避努力】③労働組合との話し合いが充分に行われたのか【労使協議】④整理解雇基準が合理的なものであり、対象者の選択にあたって不公平はなかったか【解雇基準・適用の合理性】の四つであり、そのうちひとつでも欠ければ解雇無効になる。

裁判闘争は、沖電気労組が一切の支援をうち切る状況下で、経営や職場実態、労使協議や退職強要の状況などあらゆる調査・分析を行うことから始まった。裁判闘争が進むにつれて、首切りを強行した理由が「株主配当8%を行うための人件費削減」であり、首切りの「効果」として「従業員の意識改革」があげられ、労働組合との話し合いよりも「実行計画」のスケジュールを最優先させたことなどが、次々と明らかにされていった。さらに、首切りの裏で新入社員募集活動をして、時間外労働が増え続けていたことや富士銀行が「首切り資金」を特別に融資していたことも明らかにされ、「経営危機」でもなく「余剰人員の存在」もなかったことが、動かしたい事実として示されたのである。

こうした裁判の成果は、多くの支援の仲間や職場からの協力によって勝ち取られるとともに皆を励まし、確信を深めていった。毎回傍聴席を埋め尽した支援の力も裁判闘争を前進させる重要な役割を果たした。権力機関のひとつである裁判所に、会社側の主張のどこかを見抜かせ、公平な裁判を行わせていくことは、当事者や弁護士のみでできない。傍聴席の思いが、笑いが、涙が裁判所を動かし、全国から寄せられた署名の山が支援の広がりや示すものとして裁判所を大きく包み込んだ。こうした大衆の裁判闘争の力が裁判長に「この事件は職場復帰なしには解決しない」と言わせた。

資本の首切りの自由を許さなかった裁判闘争。この裁判闘争を支えた大きな力、これこそ確信と勇気を与える源泉であった。

大橋 隆

（沖電気争議団）

裁判闘争をご指導いただいた 弁護士のみなさん

《田中解雇・刑事・都労委闘争を含む》

青木 和子	神山 祐輔	角田 義一	堀 敏明
赤沼 康弘	木村 康定	須藤 正樹	細田 初男
秋山 信彦	久保田 昭夫	仙谷 由人	松井 繁明
網野 猛美	國本 敏子	高橋 融	松尾 一郎
荒井 新二	栗山 和也	高木 一彦	松倉 雪夫
飯野 春正	栗山 れい子	田中 重仁	前田 裕司
池末 登志博	国吉 真弘	塚原 英治	宮川 泰彦
石野 隆春	小島 成一	出牛 徹郎	宮里 邦雄
石田 吉夫	小島 高志	徳住 堅治	宮原 哲朗
今井 征司	小林 勝	豊田 誠	宮本 智
五百蔵 洋一	高坂 隆信	富岡 恵美子	宮沢 洋夫
市川 幸永	笠井 治	内藤 功	箕輪 勝彦
井上 章夫	斉藤 誠	難波 幸一	丸井 英弘
上野 廣元	斉藤 展夫	西嶋 勝彦	森井 利和
大塚 武一	酒井 和	西島 正	矢花 公平
大久保 賢一	佐々木 新一	長谷 一雄	山口 英資
胡田 敢	桜井 和人	野上 恭道	山下 正祐
小川 英美子	島田 修一	野上 佳世子	山田 謙治
小木 和男	清水 恵一郎	平山 知子	吉村 駿一
小口 克巳	志田 なや子	広田 繁雄	若月 家光
梶山 敏雄	志村 新	福田 徹	久留 達夫
鴨田 哲郎	白井 巧一	藤井 眞人	加藤 晋介
金井 厚二	須黒 延佳	藤本 斎	高野 真人

（総勢九二名）

〈指名解雇時の新聞報道〉

(1978年11月)



資料

〈争議解決時の新聞報道〉

(1987年3月)



和解協定 (骨子)

昭和六十二年三月十三日

東京地方裁判所

一、本和解の日現在、復職者35人は雇用契約が存在する、退職者35人は円満退職により雇用契約が終了した。

一、復職条件

●復職者は六月末日までに就労。

●和解日から就労日までは特別有給休暇。昭和62年度の有給休暇は二十日。

●雇用保険、厚生年金保険・基金の資格は遡及して回復。

●将来の退職金は解雇前、解雇期間を通算。

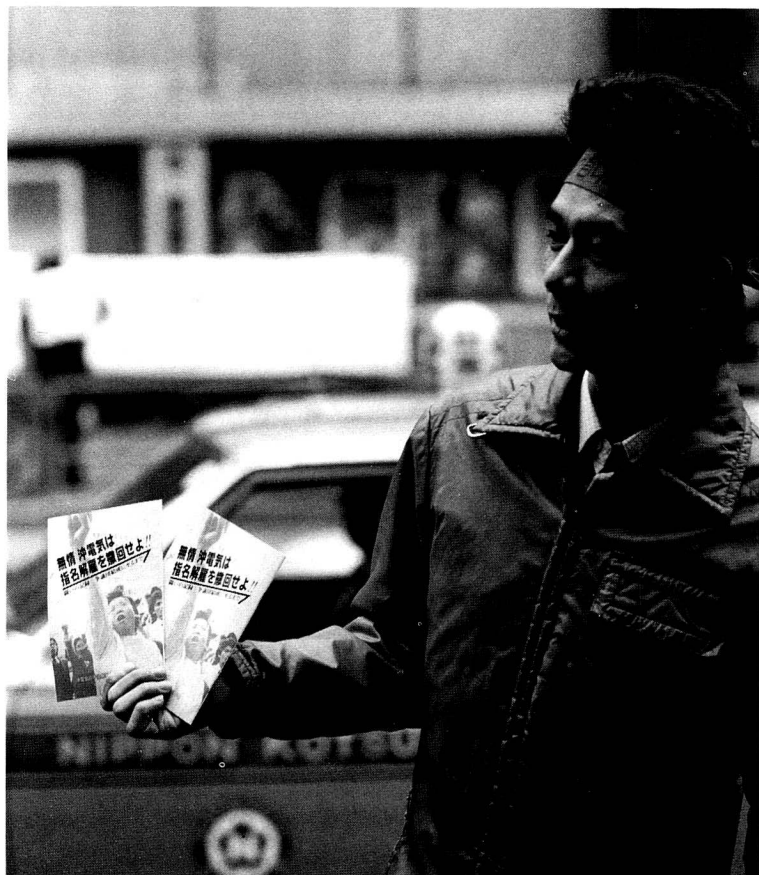
一、和解金 十二億九千万円。

一、昭和五十三年十一月の解雇に係る退職金は精算する。

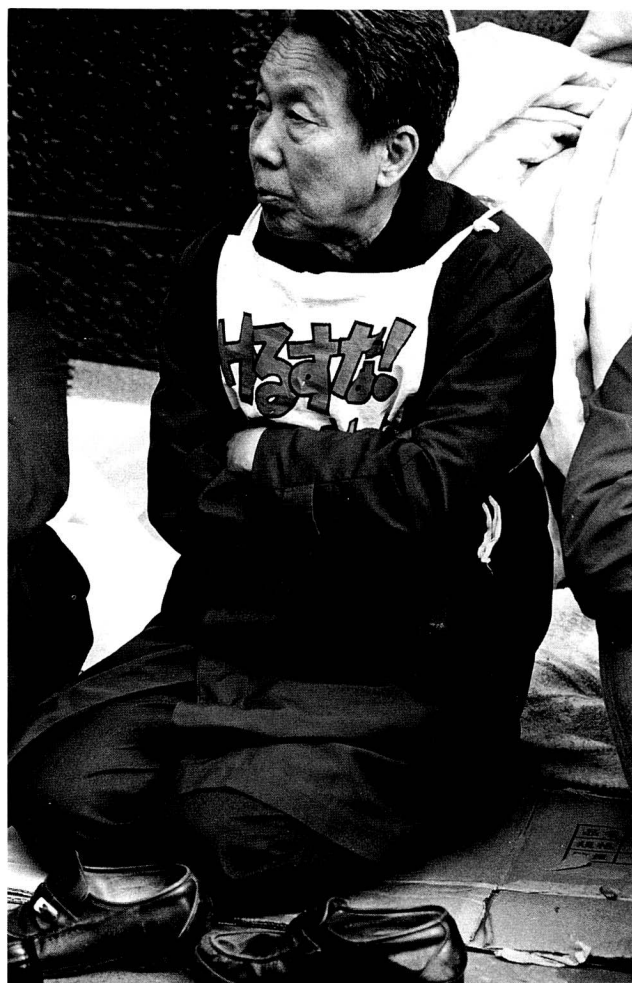
一、和解後、相互に誹謗、中傷しない。会社は本件を理由に不利益な取扱いをしない。



富士銀行への要請



輪千泰三



故・伊藤善正



署名



訴え



支援物資(沖電気本社前)

勝利！おめでとうございます。

十四日の赤旗にてみな様方の勝利を知り思
わす目頭があつくなりました。八年間もの長
い闘いの末、みごとに勝利された粘り強さ、
連帯の強さを思い、心からの敬意を表します。
みな様方のこの闘いは一主婦である私にも大
変勇気を与えて下さいました。心からお礼を
申し上げます。

私の定期便もこれで終りに到します。みな様、どうぞお元気で頑張つて下さい。

八年間本當に御苦勞様でございました。
本當にありがとうございます。

愛知県 一主婦より

神電光争執団のみなさんへ
産業税調査。人へらしの税のふりまを
今、指名財産と両方課税と叫ぶマツた
神の仲間、除税境で、石橋において指名
指名財産徴収。大さゆわと叫ぶ
歴史的勝利

祝

3033日のために
みんなにぶくろをあげて。
神童のたかひにまへ。
石橋む 隣町めし 乙がバール。
つかれをいかにして ぬきだす！
新しい労働運動の流れを大衆の
眼の前からつくりだそう

江東区枝川 1-13-6
石橋都芳委提訴団

全面解决

八
年
閏

今、
常
倒

1
2
3
4

ニル
か
う
と

4

24
1
2
4

三
14
+
5
12

[illegible]

雪の口をぬかへて
 勝平（？）
 とくしやい
 こゝろあたもさう
 叔父をまかしつた
 うかんぼこころさ
 吹雪と野を紅山茶花
 の耐えて来て
 せんじふ三
 藤原健太郎
 昭和十一年

お祝いの手紙のなかから
(1987.3.19現在)

108
港区
東京市三田 3の2020
沖電気争試団 御中



① ☒ ② ☐ ③ ☒
④ 2-G ⑤ ☐ 月 ☐ 日

460
名古屋市中区三ノ宮一丁目
名古屋水道労働組合

三井、三池以来の指名解雇を撤回させ
三五名の職場復帰を勝ちとった争試団の
皆さん、本当におめでとう。
皆さんの八年前の闘いは、労の仲間を
励まし、全団の争試団に限りは、勇気と
展望をあたえたものであり、統一と連帯の
尊さをあらためておしえたものであります。
大企業の人減らし、合理化が加えられているい
新らには、闘いのいぶきが感じられます
沖電気争試団と家族の皆さんに
あらためておめでとうの拍手をおくりします。

名古屋水道労働組合
中央執行委員長 百合草 邦



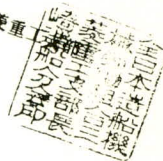
沖電気争議団御中

お 祝 い

8年ぶりの勝利心からお祝い申し上げます。
皆さんの団結と全国の支援の広がりの中で資本の譲歩を勝ち取った貴原告団
から敬意を表します。
きとも労働者の生活と権利を守るため共に前進しましょう。

1987.3.17

全日本造船機械労働組合 三菱重
長崎造船分会



前略

勝利の和解成立、おめでとうございます。
八年もの長い間、本当におつかれさまでした。
こちらは会費を送るだけで（それも遅れがあ
でしたし）何の力にもなれなかったのに、皆
さまには常に、はげまされてきたように思
います。

昨年、私が一方的にパートを首になった時
も、親切にアドバイスして下さり、またお手
紙もいただきまして、本当に元気づけられま
した。

職場復帰されても、これからいろいろな困
難なことがあるでしょうが、今までの皆さん
の力で前進されていくことでしょう。

「指名解雇」という「暴力」を二度と起こさ
せないように、これからともにがんばりま
しょう。

それでは、皆さま健康にはくれぐれも注意
して下さい。そして今までいっしょに歩ん
できたご家族の方、特に子供達によりしくお伝
え下さい。

乱筆 乱文にて失礼します。

さようなら

千葉県船橋市 川口 好恵



沖電気争議団へ

1983. 11. 13

赤いゼッケン

詞・曲 梅原司平

1 ふ ゆ を む か え る さ む そ ら の し た は う
2 ビ ラ を に ま く て に い き お や ふ き り か た けい あ さ
3 こ の こ に は じ な い お や て あ り た い あ か な

り は し だ し め さ れ た お ど こ や お ん な し め
い し み こ え に て よ け は た え き ま えん い え
い に つ か か い こ の あ ら し も の な か が て に き
か ゆ る す な こ し ど の か え せ お ど ほ う
る に も こ な ぶ し が ふ る え て な い て い た
も ど こ か か の わ た だ が は こ よ び か け た
あ か く し る し た む ね の ゼ ッ ケ ン

こ れ が わ た し の い き て い る あ か し
な か ま の た た か い の き す な

発行 沖電気争議支援中央共闘会議・沖電気争議団

〒105 東京都港区三田3-2-20 ☎(03)455-6006

- 写 真 藤田庄市・森住卓・長居洋二郎(表紙)
- 編 集 協 力 日本電波ニュース社
- タイトル文字 八島崇好 デザイン 制作会議平和デザイン
- 印 刷 東銀座印刷出版株式会社

1987年 3 月31日発行